

# 倉敷市副市長と懇談

## = 2次救急医療機関の実情伝える =



生水副市長に請願書を渡す院長(中央)

生水副市長と懇談し、診療報酬の増額のための働きかけと、医師の働き方改革※への対応にとまなう市内の救急医療体制の維持に関する新たな施策を求めました。副市長からは、地域の医療機関の苦勞は各所から聞いており、市としても共有し、県内の自治体とともに岡山県へ財政



地元記者の方に向けて広報しました

水島協同病院は差額ベッド料はいただいております

### 地域連携・患者サポートセンター主催 第15回 医療・介護連携学習会 「糖尿病の基礎知識について」

地域連携・患者サポートセンターでは、医療と介護のシームレスな連携を目指して、地域の医療・介護に携わる方に向けて定期的に学習会を開催しています。このたび、10月20日(金)に今年度2回目の学習会を行いました。

オンラインで行い、テーマは「糖尿病の基礎知識」でした。約20名の方に参加いただき、当院大崎看護師より、糖尿病の自覚症状、三大合併症(糖尿病網膜症・糖尿病腎症・糖尿病神経障害)、糖尿病と動脈硬化の関係についてお話しさせていただきました。



講師を務めた大崎看護師(左)と司会の安藤看護師(右)

「基本的なことは、な支援を訴えているところであるといった話をきくことができました。懇談後は、倉敷市庁舎内の記者クラブで、懇談の様子や市内の救急医療の現状などについて、記者からの質問に答えました。(医局事務課 鳥越仁美)

「基本的なことは、な支援を訴えているところであるといった話をきくことができました。懇談後は、倉敷市庁舎内の記者クラブで、懇談の様子や市内の救急医療の現状などについて、記者からの質問に答えました。(医局事務課 鳥越仁美)

「基本的なことは、な支援を訴えているところであるといった話をきくことができました。懇談後は、倉敷市庁舎内の記者クラブで、懇談の様子や市内の救急医療の現状などについて、記者からの質問に答えました。(医局事務課 鳥越仁美)

## 災害訓練 やってみると見えてくる視点



玄関フロアでの訓練の様子

10/21午後2時、職員による2023年度災害対策訓練を実施しました。

今回は、倉敷地域で震度6弱の地震が発生したと想定し、①地震発生から院内災害対策本部機能の構築と院



重症対応を行う職員たち

内被災状況の収集、②模擬被災患者が治療を受けるまでのトリアージタグの運用について訓練を行いました。トリアージとは、患者の重症度を判断し、適切な診療エリアを決定していくことです。タグはそれを記録したものです。地震発生の際、模



訓練で使用したトリアージタグ

擬患者が正面玄関フロアに運び込まれ訓練が開始となりました。一方、2階講堂では、事務長が災害対策本部を設置し、順次本部要員を任命し、館内の被災状況の情報収集を行いました。



院内の被災状況を一枚の紙にまとめることで次の指示につながります

(災害対策委員会)